

宇宙ビジネス入門・交流イベント

異業種から狙う宇宙戦略基金

～あなたの会社の技術、宇宙で使えるかも？～

2026年7月 ABLab

※本資料は、ABLabの視点で作成されたものであり、JAXAの確認や承認を得たものではありません。

本日の流れ

1

基金のきほん

仕組みと実績を
ゼロから解説

2

注目テーマ 「SX-ARK」

“宇宙への入口”を
深掘り

3

これからの 宇宙開発

課題・民間の役割・
異業種参入を語る

JAXA担当者のお二人に、質問しながら解説していきます

宇宙戦略基金とは？ — 3行でわかるまとめ

- 1 国がJAXAに置いた 総額1兆円規模 の基金から
- 2 企業・大学の宇宙技術開発に 最大10年 の長期資金
- 3 日本の宇宙産業を大きくするための国家プログラム

1兆円規模

10年間の支援目標

8,000億円

すでに用意

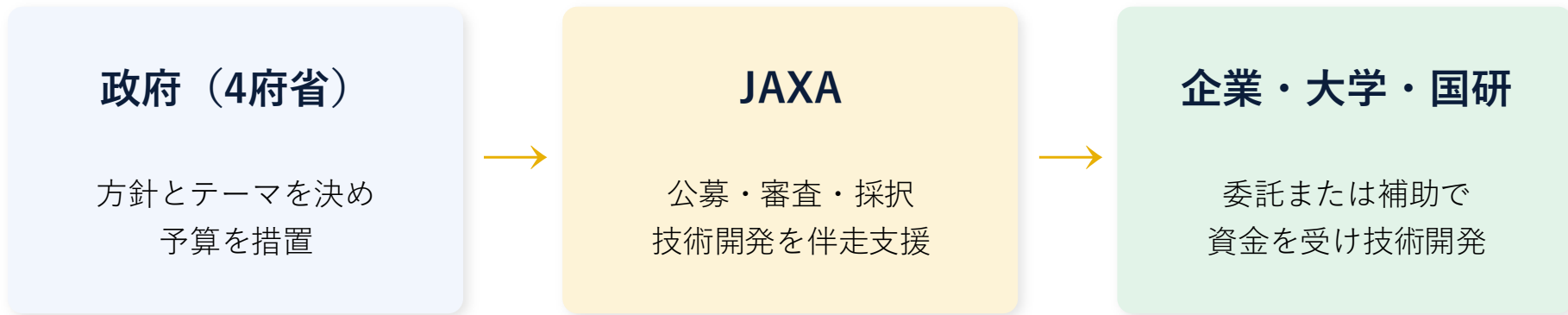
最大10年

支援期間

65テーマ

第1～3期の公募

お金の流れ — 国 → JAXA → 企業・大学



ポイント：お金を配るのは省庁ではなくJAXA

外部有識者が審査。採択後も節目ごとに進捗をチェックする「伴走型」支援

3つの分野 × 3つのゴール

輸送

ロケット・射場
打上げ能力 年30回へ

衛星等

通信・観測衛星
軌道上サービス

探査等

月面開発
地球低軌道の利用

① 市場の拡大

宇宙市場を4兆円
→8兆円へ倍増

② 社会課題解決

衛星データで防災・
環境・食料に貢献

③ フロンティア開拓

革新的な将来技術と
知の探究を強化

ここがすごい — 従来の補助金との違い

1

全額支援がありえる

類型によっては自己負担なし（補助率10/10）

2

最大10年の長期支援

単年度予算に縛られない、宇宙開発向きの設計

3

非宇宙分野からの参入を歓迎

トヨタ、キオクシア、ダイキン、楽天モバイルなども採択

これまでの歩み — 第1期から第3期へ

2023

2024

2025

2026

設置決定

閣議決定
3,000億円措置

第1期開始

22テーマ
約50件採択

第2期へ

24テーマ
SX-ARK登場

第3期進行中

19テーマ
約80件採択予定

どんな企業が選ばれている？ — 採択事例

ispace

月極域への高精度着陸
(第2期・200億円規模テーマ)

トヨタ自動車

月面用の再生型燃料電池
自動車の技術を月へ (第1期)

キオクシア

宇宙線に耐える自己再生SSD
半導体大手の宇宙挑戦 (SX-ARK)

楽天モバイル

衛星×携帯の周波数共用技術
スマホ直接通信へ (第2期)

ほかにスタートアップ・大学・研究機関も多数 (個別の採択金額は非公表)

JAXA担当者に聞きたい① — 基金のきほん

Q1. 省庁ではなく、JAXAが配ることの意味は？

Q2. 採択後、JAXAからはどんな伴走支援を受けられる？

Q3. これまでの補助金やJAXAとの共同研究と、いちばんの違いは？

Q4. これまでの採択企業や技術は、予想通り？ 意外な技術の発掘事例は？

JAXA担当者に聞きたい① — 基金のきほん

Q5. 3つの各分野において、それぞれ日本として重要な要素は何？

Q6. 第1期採択企業において、採択後の大きな変化は？

Q7. ステージゲートについて教えて？

Q8. 応募にあたって、企業側に考えて欲しいことは？

PART 2

注目テーマ「SX-ARK」

宇宙未経験の企業・大学に開かれた“宇宙への入口”

SX-ARKとは？

SX中核領域発展研究（第2期・100億円）

挑戦的なアイデアの初期実証（PoC）を支援する“キックスターター”

小口×多数

1件上限2億円を
31件採択

全額支援

大企業もスタート
アップも自己負担なし

非宇宙歓迎

地上技術の宇宙転用
こそ狙い

数字で見るSX-ARK

100億円

支援総額

2億円

1件あたり上限

31件

採択数（2026年3月）

10割

補助率・自己負担なし

目標（2029年度まで）

非宇宙プレーヤー10件以上が宇宙分野へ新規参入／採択者の70%以上が初期実証を完了

SX-ARKの2つの領域（第2期）

「熱とデバイス」 13件

高性能化するデバイスの発熱に、
地上と物理法則が違う宇宙で
どう対処するか

例：自己再生SSD（キオクシア）
熱電素子（ダイキン工業）

「運動と制御」 18件

推進系・駆動系・姿勢制御系など
宇宙機の「運動」を「制御」する
技術の革新

例：油圧アーム（三洋化成工業）
固体スラスタ（日本化薬）

採択31件の顔ぶれ — 非宇宙 × 大学が主役

非宇宙分野の企業

キオクシア（半導体）

ダイキン工業（空調）

日本化薬・三洋化成工業（化学）

フコク（自動車部品）など

→「本業の技術 × 宇宙」が評価

大学・研究機関

名古屋大（3件）・九大・京大

神戸大・東北大・岩手大・愛媛大

島根大など全国の大学

産総研・国立天文台

→地方大学の研究にもチャンス

第3期「SX基盤領域発展研究」が進行中

SX-ARKの考え方を受け継ぐ第3期テーマ（100億円程度・文科省） 新しい2つの領域で挑戦的な要素技術開発を支援

領域① 構造と材料

ロケットの分離機構、新合金、
宇宙用半導体材料など
宇宙機の「からだ」を支える技術

領域② 環境と生存

衛生・消毒、エネルギー、食事など
人が宇宙で「暮らす」ための技術

次の2枚で、それぞれの注目テーマを見ていきます

領域①「構造と材料」の注目テーマ

ロケット段間・フェアリング分離

確実・同期した分離とロック解除／使用済みの段やフェアリングを回収して再利用

高エントロピー合金

軽くて強い新合金の開発。表面劣化の抑制、強度と延性の両立、AIを使った合金設計など

半導体材料

宇宙線・ガンマ線への耐性、激しい温度変化に耐える動作、耐熱パッケージング

領域②「環境と生存」の注目テーマ

衛生管理・消毒

閉鎖空間の細菌・真菌の効率的な除去／衣類の洗浄・消毒液の自給／微小重力下での医療器具の滅菌

エネルギーマネジメント

月面の粉塵や激しい温度変化から発電設備を守り、効率低下を防ぐ

食事・調理

長期ミッションの「メニュー疲労」の解消／限られた環境での生鮮野菜の安定栽培

JAXA担当者に聞きたい② — SX-ARK編

Q1. 宇宙の実績がゼロでも、本当にチャンスがある？

Q2. 実証（PoC）で成果が出れば、追加の支援も期待できる？

Q3. 第2期、第3期のテーマ選定理由は？

Q4. 応募の難易度は？

JAXA担当者に聞きたい② — SX-ARK編

Q5. 非宇宙企業が採択された際の「決め手」は何？

Q6. 「構造と材料」「環境と生存」の宇宙課題を詳しく教えてほしい

Q7. 応募準備は何から始めるべき？つまりきやすいポイントは？

Q8. 異業種企業に伝えたいことは？

PART 3

これからの宇宙開発

宇宙の課題／民間企業の役割／異業種参入 — 3つの視点で語り合います

視点1：いま宇宙にはどんな課題がある？

輸送

打上げのコストと頻度。
再使用化・量産化が世界の競争軸に

軌道環境

衛星の急増。デブリ対策と
宇宙交通管理（STM）が急務に

月・深宇宙

エネルギー・通信・生存基盤を
どう築くか。ポストISSも視野に

共通基盤

熱・材料・半導体など
宇宙機を支える「足腰」の技術

→ 求められる技術は「宇宙技術戦略」に整理され、基金のテーマになっていく

視点2：民間企業の役割はどう変わる？

世界の潮流：官主導の宇宙開発 → 官民連携 → 民間が主役の時代へ

開発の主役

コストとスピードの革新は
民間の得意分野

サービスの創り手

衛星データ・輸送・軌道上
サービスをビジネスに

政府は需要で支える

アンカーテナンシー
(政府調達) で好循環を

視点3：なぜ異業種の参入が重要？

宇宙技術の多くは、地上技術の「宇宙転用」から生まれてきた

自動車 →

燃料電池・部品・
運動制御

半導体 →

耐宇宙線デバイス・
メモリ

空調・化学 →

熱制御・推進薬・
新材料

食品・農業 →

宇宙食・植物栽培
(環境と生存)

裾野の広さ＝日本の宇宙産業の強さ。基金（SX-ARK等）はその入口を用意している

JAXA担当者に聞きたい③ — これから編

Q1. 宇宙課題において、日本の強みが活きるポイントは？

Q2. 今から参入するなら、どの分野を検討すべきか？

Q3. 採択されなかった民間企業は、今後どのように関わっていけば良いか？

Q4. JAXAの役割はどう変わっていくのか？

Q5. 宇宙を検討する入門者・企業へ、メッセージをお願いします。

今日のまとめ

- 1 宇宙戦略基金は、10年・1兆円規模で宇宙産業を底上げする国家プログラム
- 2 SX-ARKと第3期の新領域は、非宇宙の企業・大学への入口
- 3 これからの宇宙開発は、民間と異業種が主役になっていく

もっと知りたい人へ JAXA宇宙戦略基金：fund.jaxa.jp
内閣府：www8.cao.go.jp/space/kikin